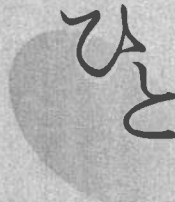


あり お み か こ
有尾 美香子さん(41)



神奈川県出身。上智大文学部卒。ぐるーん(<http://www.fac ebook.com/gruun.org>)ではメンバーを募集中。



乳児院を定期的に訪れ、親と一緒に暮らせない子どもを数時間抱きしめる。緊張してこわ張る子ども、5分後には目を合わせてにっこり笑う。任意団体「ぐるーん」を設

て、3年間の不妊治療を経て、双子の男児(7)を授かった。しかし1年後に離婚。「自分が病気をし

たら、この子はどうなるの」。児童福祉の制度を身近に感じた。見学した保育園で、虐待の現場を目にして行政に連絡した。活動の原点だ。

「大人ができる範囲で子どもと触れ合い、差し伸べる手を増やしたい。里親や養子縁組という血縁を超えた絆につながると思います」

文・榊真理子
写真・矢頭智剛

立し、「抱っこボランティア」を始めて1年半。フェイスブックを通じてメンバーは約80人にまで増えた。「まずは触れ合

って、誰もが持つスキンシップの欲求を満たしたい」。神奈川県、岡山、大分などの4施設に通う。

転職先の保険会社の社会貢献プロジェクトで児童養護施設に通った。息子を連れて行って自分に甘えたら、施設の子どもが複雑な気持ちになる」と考えていたら、子ども

や職員が「寂しがってるんじゃない」と心配してくれた。「一緒に訪ねると、子ども同士はすぐに仲良くなった。施設の子も、外に出たらいろんな親子に会う。過剰に意識しているのは大人の方だと感じた」。ぐるーんでは、メンバーの子や里子、施設の子どもが共に遊ぶイベントを開催する。「幼

い頃に遊んだ体験があると、特別視せず共感できる」と思うからだ。

「大人ができる範囲で子どもと触れ合い、差し伸べる手を増やしたい。里親や養子縁組という血縁を超えた絆につながると思います」